

#04_体をつかって奉仕してこそ！～望海のフェラ&寧音の耳舐めご奉仕～

★…寧音

◆…望海

★「あはは…次の性処理は望海さんが…なんて言ってたけど…」

◆「こんなに早くおちんちんが回復するなんて、予想外です」

★「久しぶりにエッチなことをしたから、興奮しちゃったのかなあ？
でも、そういう男らしいところも、大好き！」

◆「底なしの性欲…ということですね」

★「そしたら…もう1回、寧音がおちんちん気持ちよくしてあげよーかなあー」

◆「だめですよ寧音さん。次は私の番です。そう約束したでしょう」

★「ぶーぶー！　でも、そうだよ。約束は守らなきゃ…」

◆「では、今回が私が…」

◆「ふう…ふう…」

★「どうしたの望海さん、そんなにおちんちんに顔を近づけて…」

◆「せっかいですから、手以外の方法で気持ちよくしてあげようかなと思ひまして。お口でご奉仕しようと思ったのです」

★「お口でって…ええっ!?　ふええ!？」

◆「ふふ、見ててください」

◆「ふーっ…」

◆「手でやるのもいいですが…こっちの方がこそばゆい感じがして、
良いでしょう？」

★「なるほど…そういうやり方もあるんだね。勉強になるよ」

◆「ええ、そういうことですので。寧音さんは見ていてください」

◆「では…失礼します」

◆「んぐっ…ちゅ…ちゅりゅ…ちゅっ…んれろ…れろ…れろ…ちゅりゅ…
ちゅっ…ちゅぶ…んれろ…はあ…♡」

★「ふわあ…望海さん…本当におちんちん、舐めてる…
何これ、エッチすぎだよお…」

◆「何を言うんですか、彼女ならこれくらいできて当然です。
…ねえ？ あなたもそう思うでしょう？」

◆「ちゅ…ちゅっ…れろ…れろろ…れりゅりゅ、
んれろ…れろ…んちゅ…ちゅっちゅっ、
れろ…れりゅりゅ…んふっ…あなたのおちんちんの匂い、
とっても濃くてステキです♡」

◆「れりゅ…れろ…ふふっ、このあたりを舐められるのが好きなのですか？
それなら、れろ…れろろ～…んりゅ、れりゅれりゅ…♡」

★「おちんちんって、こんなペロペロキャンディみたいに舐めるんだ…
あなたのおちんちん…望海さんのよだれでテカテカされちゃって、
すっごくやらしいよお…」

◆「んふっ…れりゅ…れろれろ、んっふう…ちゅりゅ♡
…れろれろ♡ ふふっ…気持ちいいみたいですわね。
どんどん大きくなってますよお」

★「んんっ…それに望海さん…あんなに美味しそうに舐めて…ゴクリ」

★「よーし！ 寧音も負けないんだから！」

★「ふふっ…！ おちんちん舐められて、それだけでもとっても
気持ちよさそうだけど…でも、おちんちんと一緒にお耳を舐められたら、
もっと気持ちいいんじゃない？」

★「寧音も、あなたが最高に気持ちい～状態になれるよう、
お手伝いするからね♡ …ちゅっ」

- ◆「んっ！ んっふう…れろ、れりゅ、ちゅっ、ちゅぷ、ちゅぷあ…♡
んちゅ…れろ、れろ…ちゅっ、ちゅううつ…れりゅりゅ…♡
すう～…れろ、れろ、れろろろっ、ちゅっ！」
- ★「んちゅっ…はあ、ちゅりゅ…はあ、はあ…んっふっ♡
んん、れりゅ…れりゅ…れろろ…んりゅれろろ…♡
んじゅ、ちゅっ…！ ちゅぷあっ！ んちゅ、ちゅううつ！」

- ◆「んっ…！ 寧音さんからの刺激で、さらに固くなるなんてっ！」

- ★「本当だ！ すごいすごい！
びーんって反り立って…男の人のおちんちんって、
こんなになっちゃうんだ」

- ◆「あなたを気持ちよくさせるのが恋人としての役目ですが…
寧音さんには負けたくありませんね」

- ★「え～？ 別に良くない？ 最終的にこの人に気持ちよくなって貰えれば」

- ◆「気持ちの問題です。
私の方がおちんちんを気持ちよくしているという自信がほしいのです」

- ★「そっか、なら寧音も本気だす！ もっともっと本気だして！
耳だけであなたをガクガクにしちゃうんだから！」

- ◆「でしたら、私はここからはさらに…しっかり啜えこんで…
もっと、気持ちよくしてみせましょう」
- ◆「じゅぷぷぶっ…んじゅ、じゅりゅりゅ！
んじゅ、んりゅっ、んじゅ、じゅっ、じゅぷっ、んんっ！
んふっ、じゅりゅ、じゅりゅ、じゅりゅりゅ！ んじゅぷっ！
ぷじゅっ、ちゅりゅりゅ！」

- ★「すごい…あんなにくわえこんじゃって…よおし、寧音も負けないぞおっ！」

- ◆「んじゅ、じゅりゅりゅ、りゅりゅ、んじゅっ、じゅぷ、じゅぽっ、
じゅりゅりゅ、んじゅっんふっ！ んちゅ、りゅりゅ、ちゅりゅりゅ！
んじゅりゅりゅ！」

- ★「んふっ、ちゅ、ちゅりゅ、じゅちゅ、んあっ、じゅりゅ、
じゅずずぞぞ…ふっ！ んじゅりゅ、りゅりゅ、ちゅりゅ、ぞりゅ、
じゅりゅりゅ…！」
- ◆「んあっ、じゅずぞぞ、じゅりゅりゅ、じゅぷ、んじゅちゅう、
ふう…んりゅ、んじゅ、んあ、れろ…れろれろ、んじゅりゅりゅ…
じゅぷあっ！」
- ★「んちゅ、じゅりゅりゅ…ぷあっ…ふう、れろれろ、れりゅりゅ！
おちんちんもお耳も、たくさん舐められて、気持ちいい、
気持ちいいね〜♡」
- ◆「んじゅっ…じゅぽぽっ…ずぞ…ずぞぞぞ…んじゅ、んっ…ふう…！」
- ◆「あなたの匂いが…口の中にいっぱい広がって…んふっ…
私も、気持ちよくなってしまう。んふっ…んんんっ…ふふっ…
不思議です、自分で触ってないのに…体が昂ぶって来て…」
- ★「望海さん…いいなあ、いいなあ…羨ましいなあ…♡
って、ダメダメ、これは約束…約束う…！
今はあなたのお耳を気持ちよくすることだけを、考えないと…！」
- ◆「じゅぽ！ じゅぽ！ じゅぽっ！ じゅぽぽっ！
んふっ…んじゅちゅ、ちゅ…ちゅりゅ…じゅりゅりゅ…
ぞりゅりゅりゅりゅ…」
- ★「んじゅ、じゅりゅ！ じゅっ！ ちゅっ！ ちゅううう！
れろ…んれろ、れろれろ…んふうっ…！ れろれろれろ、じゅじゅれろ！」
- ◆「ぶふう…どうですかあ…
おちんちん、たまらなくなってきたんじゃないですか？」
- ★「んふっ…もうたまらないって顔してるね。はあ、ふふふっ！」
- ◆「んあっ…んふっ、んふうっ…んちゅ、じゅりゅ…じゅりゅぞろろ…！」
- ★「ちゅっ…じゅりゅ、ちゅっ！ ちゅううっ！ んちゅ…ちゅりゅりゅ…！」

◆「んふうっ…んじゅりゅりゅ…いいですよお…
遠慮なくいつでも出して…私のお口の中にい、
あなたの濃い精子を恵んでください」

★「ちゅっ！　ちゅっ！　じゅりゅる！
ほらほら、望海さん…あなたの精子が欲しいみたいだよお…
正直先を越されるのは癪だけど…お願い聞いてあげて？
そして寧音にもいつか…同じようにしてね？
ちゅっ！　んじゅ！　ちゅっ！　ちゅりゅりゅ！」

◆「んふっ…んじゅっ！　んじゅっ！　じゅぽぽっ！
ふあっ…大きくなってきたあっ！」

★「ちゅっ…じゅりゅ…ちゅりゅりゅ！　出そうなんだね？
気持ちいいお汁、出ちやいそうなんだ！」

◆「ふあっ！　んじゅっ！　らひてっ…！
んじゅりゅ！　らひてくださいいっ！　んじゅじゅ！　じゅぽっ！
じゅりゅ！　じゅりゅ！」

★「出しちゃおう！　出しちゃおう！
望海さんのお口の中にあっつい精子をびゅるびゅるびゅる～って！
一番気持ちのいい時に一番気持ちいい射精をしちゃおうっ！
んちゅうっ…！　れろ、れろれろっ！」

◆「んふっ！　んじゅっ！　じゅりゅりゅ！　んじゅっ！
じゅぽ、じゅぽ、じゅぽ！　じゅぽぽっ！　じゅぞぞぞ！」

★「ふう、ふう…ほら、そろそろ！　そろそろきちやうよ！
気持ちいいのが続々上がって～～～せえ～のっ♡」

◆「んんっ！　きたあっ！　ふうっ！　んふっ…んんんっ♡　んぐっ、
んっんっんっ！　んふふう～！　んんっ！　んんぐっ♡
んふっ～んんっ♡　んんん～～～っ♡」

★「びゅっ、びゅっ！　びゅりゅりゅりゅりゅ～！　びゅりゅりゅりゅ～♡
びゅるびゅる～びゅびゅびゅ～！　びゅ～♡　びゅ～♡
どびゅ～～～っ！」

★「いっぱい出たね♡　たくさん溜まってたんだ」

◆「んぐっ…んんっ…ふう♡」

★「望海さん、大丈夫？　ティッシュいる？」

◆「いえ…お構いなく。これは…こうして…」

◆「んぐっ…ぐっ…ぐっ…んふう…ぷはあ…♡」

★「ふえっ！　望海さん…精子飲んじやったの!？」

◆「ふふ、もちろん。捨てるなんて、もったいないですからね♡」

◆「ごちそうさまでした。あなたの精子、とっても濃厚で…美味しかったですよ」

★「ふわあ～…おちんちんを舐めるだけでもエッチなのに…
出されたものを飲むなんて…もっとエッチだよお…
いいなあ…寧音もやってみたいかも」

◆「まあ、あまり言いづらいですけど…やる機会があれば、
参考にしてみてください」

★「うん！　それじゃあ…早速？」

◆「こらこら…それは流石に厳しいでしょう…今射精したばかりなんだし」

★「そっかあ…それじゃあ、今度試させてね♡」

◆「…寧音さん、抜け駆けは駄目ですからね？」

★「はいはい！　わかってまーす！」

◆「…大丈夫でしょうか？」